田原城に渡辺崋山の足跡を訪ねる

11月8日新田原市を訪ね、渡辺崋山の足跡を学び蔵王山からの眺めを楽しんだ。

80KM がなんと 2 時間 30 分もかかる

AM8. 30"に出発して今回は高浜から米津橋へ出る道ではなく、衣浦海底トンネルを出てそのまま西尾へ向かう県道を走った。この道はかなり整備されていて、順調に走り蒲郡手前の東海道線を陸橋で超えると、豊橋方面は下へ降りる表示だった。案内に従い23号に入り蒲郡の街と、三谷の街を抜けて走る。この間は相変わらずノロノロ走ることになる。早く蒲郡を抜けるバイパスが必要だ。それでも23号を走って渥美半島側へ行くため、右折して豊川橋の手前あたりまでは順調だった。ところが、それからがいけない。大渋滞なのだ!!反対車線も同じように渋滞していた。おかげで田原城跡の博物館に着いたのは11.00"だった。

田原城の生い立ち



二の丸櫓と桜門



城外からの桜門

田原城は文明 12 年(1480)頃、戸田宗光によって築城。周りを海に囲まれた堅固な城で湾の形が巴形になっていたところから、巴江城とも呼ばれていた。寛文 4 年(1664) 当時挙母城主だった三宅家が拝領し、以来三宅家 12000 石の居城として明治維新をむかえた。

崋山は田原というより江戸の人だった

渡辺崋山は寛政5年9月16日、江戸麹町の田原藩上屋敷に生まれた。13歳のころ藩の学者のもとで朱子、陽明の学問を学びさらに蘭学による西洋事情の研究に進んだ。18歳の時藩校「成章館」が田原に創立されている。26歳の正月藩政改革の意見を発表、長崎遊学を希望したが父の反対で断念している。31歳のとき和田たかと結婚する。39歳のとき江戸藩校の総指南役となり、40歳のとき家老職を命ぜられる。

このように見るとめちゃくちゃ早い出世とはいえない。しかしこの間に学問のみならず、画家としても才能を発揮し20歳ころより画料をもらって家計の助けとしていた。独特の描線と洋画の立体感を取り入れ花鳥、山水、人物と多彩な作品を残した。

政治家としての崋山

そして家老となった崋山は、外国船対策として沿岸の要所に砲台を築き村人に異国船の監視に当たらせるなど海岸防備に心を用いた。ほかにも税の免除、新田開発による沿岸民の不安解消など、苦心の末その成功をみている。天保6~8年は全国的に大飢饉の年であつたが、田原藩では6年に官民一体の総力で備蓄のための「報民倉」を築き、7年~8年の大凶作を乗り切った。このとき崋山は病気で田原にこれなかったが、真木重郎兵衛に策を授け部下の活躍により一人の餓死流浪者も出さなかったとある。その結果翌9年幕府は全国に唯一、田原藩を表彰したのである。

外国事情の研究が仇となり失脚

鎖国により日本は、世界の水準よりはるかに遅れていることを最も憂えた 崋山は、人々が外国への認識を高めるために蘭学研究の結社を作った。蘭学 書をおおく集めさせ、高野長英、鈴木春山らにこれを翻訳させた。また当時 の西洋砲術家とも交流し、オランダ人の語るところを聞き国政の方向を誤ら ぬように心を注いだ。しかし、その著書「真機論」には攘夷の非を唱える憂 国の情が書き綴られ、これが幕府の批判とされ、田原での蟄居を命ぜられる。 崋山 47 歳の 12 月である。翌年 1 月 20 日田原に到着するが、藩主にまで災 いの及ぶことを恐れた崋山は、49 歳の 10 月 11 日自らを不忠不孝と言って自 刃して果てる。

崋山は26歳、35歳、41歳の時に田原に滞在しているが、暮らしたのは晩年の1年と10ケ月だけ。でも田原の生んだ偉人には違いないらしい。

椿の道を散策

田原城桜門まえの民族資料館ものぞいた、入館無料なのだが受付にはおじさんが一人いた。農具、漁具などの展示は懐かしいものがいくつか目に付いた。お客さんは誰もいない、受付もいなくて良いのではと思える。このあと旧藩校のあつた田原中部小学校の前を通り、椿の道コースを歩く。



藩校跡は小学校に



椿に囲まれた崋山の銅像

ひときわ目立つ立派な時計塔のある、田原福祉専門学校を横目に歩くと池 ノ原公園に着く。ここには渡辺崋山の銅像と、蟄居した屋敷が残されている。 まわりは椿の木がたくさん茂っている、故人が好んだ木であったのか、それ ともたまたまこの地区に多かったのか。銅像横の椿の路地を通って、つばき 公園まで歩く。きれいに芝生の張られた公園には、隣で新築工事中の大工さ んたちが休憩していた。

温かい日差しを浴びながらベンチで小休止、熊野土産の紀州みかんを食べながらこの後のコースを検討。というのもすでに13.00"で今から蔵王山に登ると、展望台で食事が出来るかどうか? もし食事できないとなると登って降りてからとなると、16.00"ころまで食事できないからだ。

蔵王山の大パノラマ

コンビニで弁当を買って蔵王山へは車で移動、山頂で食べることにする。 展望台の駐車場には数台の車が止まっていた、早速芝生の上で弁当を広げ田 原の町を眺めながら食べた。いつものことながら戸外で食べると旨い。この あとタワーに登っていくと、売店は火曜日休みでシャッターが降りている。







蔵王山の風車

レストランの案内もあったが実際には存在していない。やれやれ弁当を買ってきて正解だった。

4 階展望室からは 360 度の大パノラマが広がり、すばらしい眺めだ!!トヨタの田原工場や造船所の巨大なクレーンが見える。さらに海沿いには風力発電の風車が 12 基建ち並び、ゆっくり羽根が回っている。

ここ蔵王山にも展望タワーの前に、風力発電の風車が1基設置されている。250mの山頂に吹く風は、年平均8mで一般家庭270軒分に相当する90万kwのクリーンな電力を発電している。これだけで石油の節約はドラム缶1200本分になるというからすごい。

ここにもあった第三セクターの巨大施設

蔵王山を降りて海岸を走り白谷海浜公園へ寄ってみる、海水浴場と公園を セットにした立派な施設でその大きさにびっくりした。



サンテパルクたはら



ごぼうの花

でもこの時季は風が強く人の姿はほとんどない。一年を通して旨く活用しているのだろうか?さらに車を進めて農業公園の「サンテパルクたはら」へ寄ってみる。斜面を利用した畑、古い機関車の展示はいいとしてメインの展示館、体育館それに実習工房、スーパーから喫茶室まである。

メインの展示館もこれはという見るべきものがない。野菜がどんな風にできるか、野菜の花のパネルがあったりする程度だった。

コーヒータイムにして店の人にどこの経営か聞いてみると、農協、市などの 第三セクターという。これまで第三セクターでうまくいった例は極めて少な い、責任があいまいだし責任感に欠けるのではと思う。入園も無料でこんな でかい施設を維持していけるのか、首を傾げざるを得ない。

今回の田原市巡りでは、トヨタ進出に伴う変化を如実に感じたしだい。町の発展には安定した財源が必要で、そのためには企業の誘致は欠かせないのだ。となれば住宅ゾーン、商業ゾーン、工業ゾーンと大きく区分した街づくりを広域で実現するのがよりベターだと思う。